



Future Earth: 持続可能な未来の社会に向けて

# IHDPからの実証

北海道教育大学  
氷見山幸夫

2013年6月18日

# 地球環境変化の人間の側面国際研究計画(IHDP)

IHDPはIGSU(国際科学会議)、ISSC(国際社会科学協議会)、UNU(国連大学)の支援を受け、人文社会科学的側面から地球環境研究を推進している。Future Earth は地球環境問題に対する学際的なアプローチを重視しており、特にこれまで自然科学よりも出遅れていた人文社会科学面からの取り組みの強化を目指している。IHDP国内委員会ではIGBPやESSPとの共同の下で研究が先行しているGLP、LOICZ、GCPなどに加え、世界的に増加している災害に対する統合的なリスク管理を扱うIRG、地球環境問題解決に知識・学習・社会変革からアプローチするKLSC、地球システムをガバナンスの観点から研究・提言するESGをこれまでの地球環境研究の弱点を強化するものとして特に重視している。Future Earth は現在の地球環境研究の国際的な枠組みを大きく変えるものであるが、これらのコアプロジェクト等はその枠組みの構成単位として重要であり、それらの発展的な再編と強化は大きな意味を持つ。

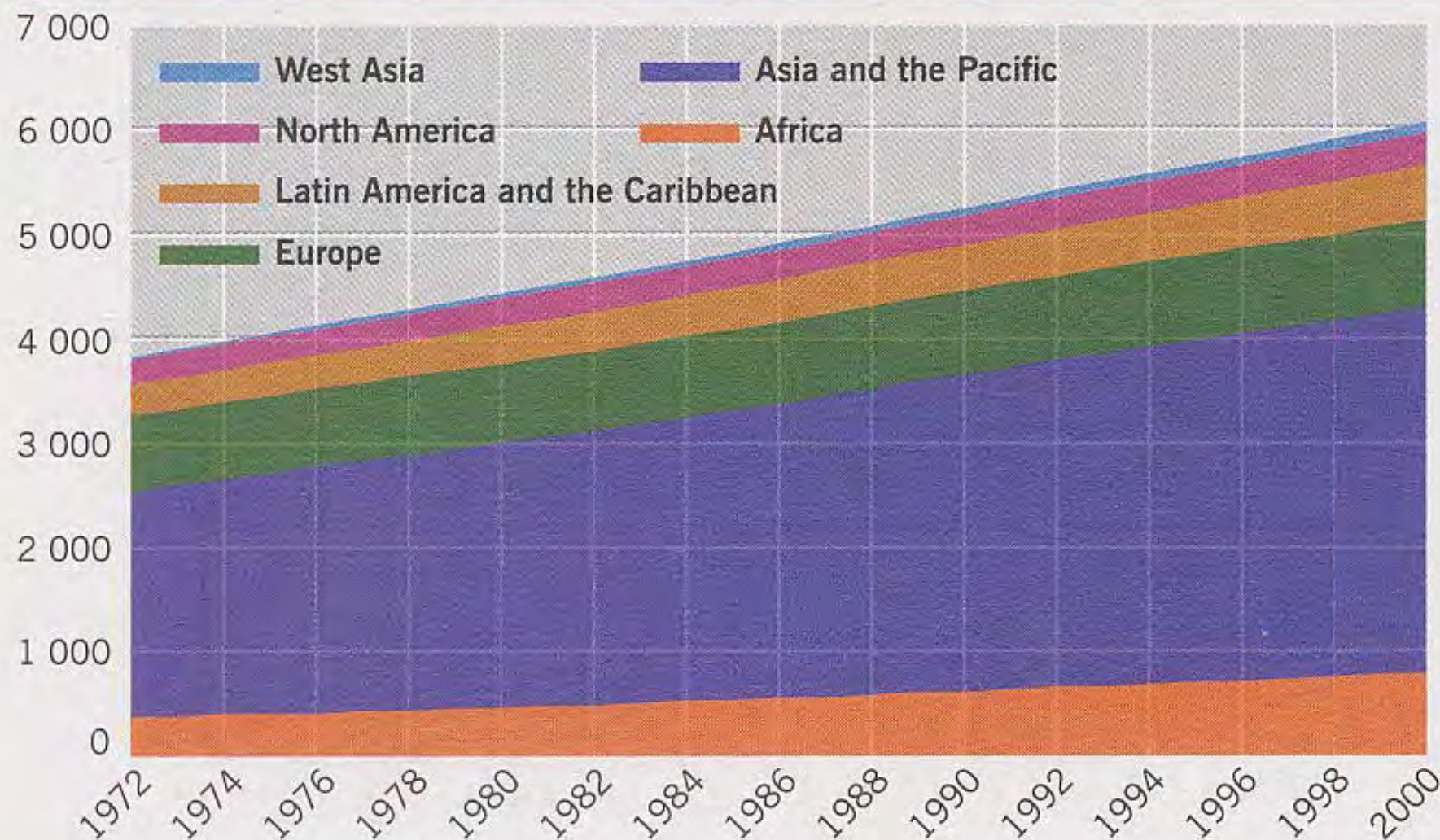
## IHDPのコアプロジェクト、共同プロジェクト

|                                         |                          |
|-----------------------------------------|--------------------------|
| ESG: 地球システム管理プロジェクト                     | GLP: 全球陸域プロジェクト(IGBPと共同) |
| IHOPE: 統合人類史プロジェクト                      | IRG: 統合リスク管理プロジェクト       |
| LOICZ: 沿岸域における陸域・海域相互作用プロジェクト (IGBPと共同) |                          |
| UGEC: 都市化と地球環境変化プロジェクト                  | GCP: 全球炭素プロジェクト(ESSPと共同) |
| GECHH: 地球環境変化と健康プロジェクト(ESSPと共同)         |                          |
| GWSP: 全球水システムプロジェクト(ESSPと共同)            |                          |

## IHDPのアライアンス、ネットワーク、イニシアチブ

|                        |                            |
|------------------------|----------------------------|
| KLSC: 知識・学習と社会変革プロジェクト | MRI: 山地研究イニシアチブ            |
| PERN: 人口・環境研究ネットワーク    | START: 地球環境変化の解析、研究、訓練システム |

## World population (millions) by region, 1972–2000



World population is currently growing at 77 million a year, with two-thirds of the growth in Asia and the Pacific

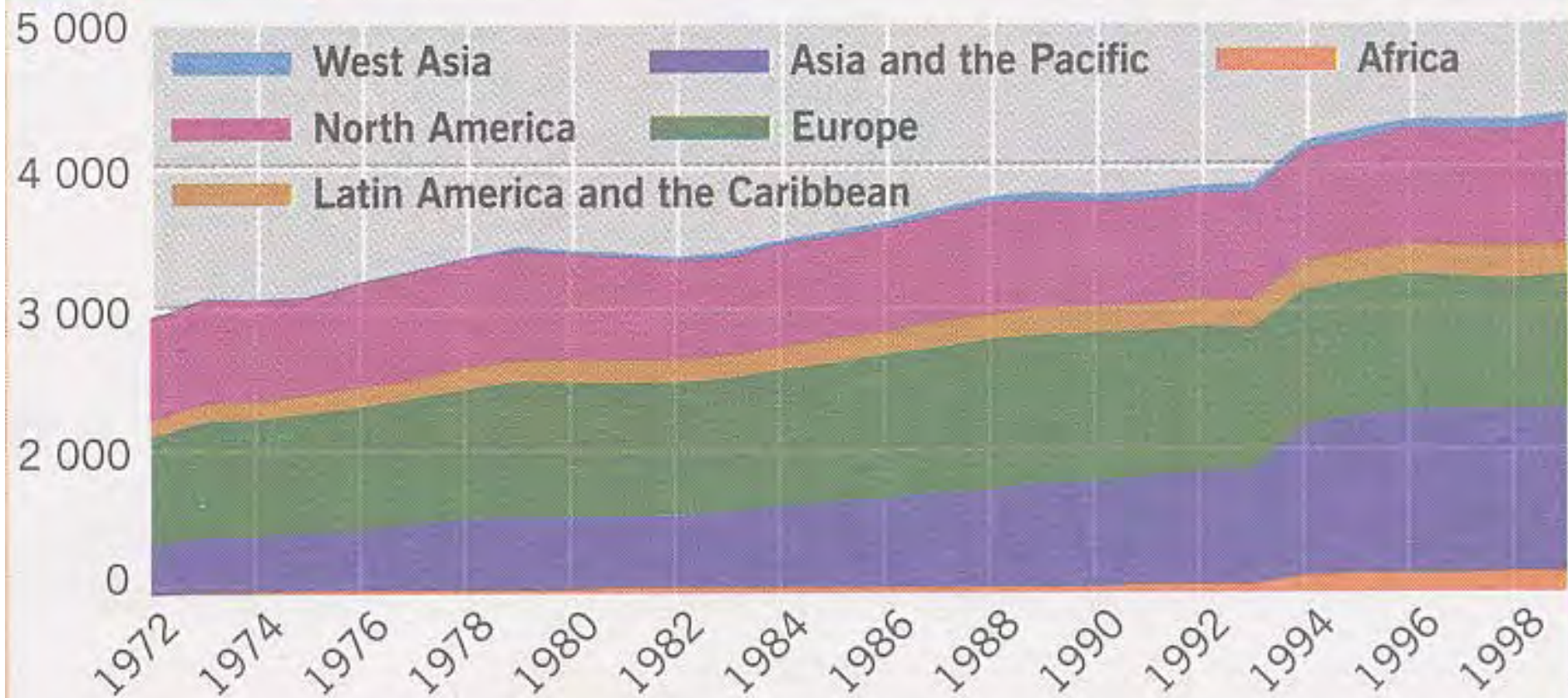
Source: compiled from United Nations Population Division 2001







## Total energy consumption (million tonnes oil equivalent/year)



Source: compiled from IEA 1999 and United Nations Population Division 2001

## IHDP研究の例： 科学研究費基盤研究(S)アジアにおける持続可能な 土地利用の形成に向けて(平成21年度～25年度)

目的：日本学術会議が2008年7月に公表した提言『陸域－縁辺海域における自然と人間の持続可能な共生へ向けて』の実現の一端を担うため、陸域の利用、即ち土地利用に焦点を当て、提言の3本の柱である地球情報基盤の整備、分野横断的研究の推進、政策の推進と教育の充実を緊密に連動させた総合的研究を、アジア、特に新興の大国ロシア(主に極東)、インド、中国、それに日本について行う。本研究の目標は、自然と人間の共生が崩れつつある地球環境危機の時代の制限的条件下における土地利用の在り方とそれに至る道筋を提示すること、及び土地利用に関連する地球環境・災害問題や食糧問題等の解決に役立つ知見とアトラス等の資料を社会に提供することにある。そこで同様の目標を掲げる国際研究計画であるGLP(国際陸域研究計画)およびIGU-LUCC(国際地理学連合土地利用・土地被覆変化研究委員会)と緊密に連携する。また先に本研究の代表者および分担者らが実施した基盤研究(S)「日本・中国の土地利用・土地被覆変化に関する地域間比較研究」の研究手法と成果を活用し、効率的な研究を行う。その際、エコロジカル・フットプリント等の総合的持続可能性指標を導入・改善することにより、土地資源的観点からの諸地域の実態の定量的理解と問題解決への貢献を、確かなものにする。

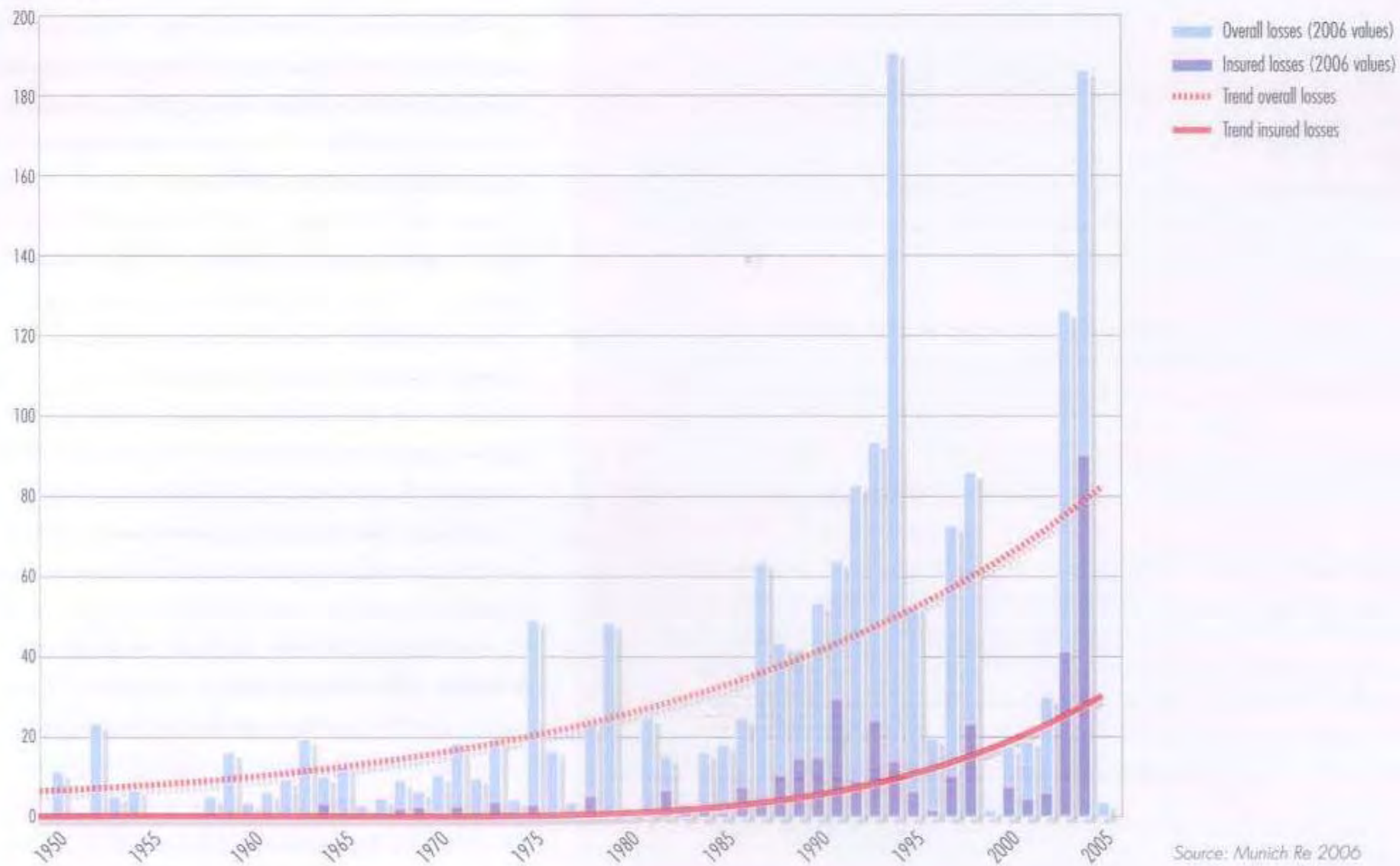






**Figure 7.25 Overall losses and insured losses due to natural hazards**

US\$ billion







A landscape photograph showing a wide, grassy field in the foreground. In the background, there is a dense forest covering a hillside. The sky is overcast and grey. In the distance, some white, dome-shaped structures are visible behind a fence. The word "END" is written in large, white, serif capital letters in the center of the image.

END